

行仙宿小屋のストーブ交換と行仙岳北側の段差補修など

◇ 実施日； 9月4日（土） 曇

◇ 参加者； 沖崎吉信、児嶋道夫、乾克己、大江加予子、畑林秀

味・清子、松本吉殖、梶野照雄、瀧本昭太郎、中前  
偉、谷口昇、内野井慎搾 12名

5月4日に青木氏寄贈の鑄鉄製薪ストーブを行仙宿小屋に荷揚げしたが、その後天候の不順が続きストーブの交換作業が延期されて、本日ようやく交換することが出来た。

午前9時、登山口に全員が揃う。児嶋さんは荷物をモノレール終点まで上げ、先行して行仙宿に向かった。



登山口に集合



川島前代表の慰霊



ストーブの撤去

無人で降りてきたモノレールに残りの荷物を積んで登りだす。途中川島前代表の慰霊を行い、終点から荷物を分担して行仙宿に向かう。送電線下の伐採地で薪を束ねてから行仙宿に到着。先行した児嶋さんはドラム缶のストーブを撤去していて、煙突も外されていた。ドラム缶内部の燃焼室はあちこちに穴が開き、上部の燃焼筒は最下部がほぼ無くなっていた。



ブロックを並べる 薪ストーブの位置決め

行仙岳北側

撤去されたドラム缶などを小屋の外に運び出し、焼却炉横に集積した。

土台の耐火レンガを取り、倉庫に収納。灰は小屋の北西斜面に撒いた。ブロックを敷いて床と同じ高さにする。

煙突を真つすぐ通すために、角型排気筒の一部を外した。ここ迄の作業でストーブ設置の目的が立ったので、昼食にした。

昼食後、ストーブの設置作業を児嶋、乾、松本、畑林秀の4氏にお任せして、残りの8名で行仙岳北側の段差補修に向かった。

北側の捲き道分岐付近で小石をバケツに2杯集めて、7月に造った迂回路に敷き詰めた。横木が外れている箇所6ヶ所を補修、新しく横木を入れた段差を2ヶ所造った。谷口さんと内野井さんが大活躍で、補修個所の半数以上をお二人で施工された。



段差の補修作業

迂回路に小石を

持ってきた木杭20本を使い終えて作業終了、行仙宿に戻る。

行仙宿に戻ると、ストーブの設置は完了していた。以前は角型排気筒の途中までしか届いていなかった煙突も、排気筒の上まで伸びて、排気が確実にになっていた。ストーブが小型になったので、小屋内の空間が広がり、少し広くなったように見えた。

お堂前で写真を撮り下山する。

登山口の階段横にシンクを設置した。中前さんが不要になったシンクの再利用先を探しておられたので持ってきていただいた。水場からのホース先に置き、足元にアンカーを打って針金で固定した。

(記：梶野)



設置完了したストーブ

本日の参加者

登山口にシンク設置

### 行動タイム

補給路登山口 09:10 → 10:10: 行仙宿 12:30 → 13:15 行仙岳北側 ↓  
13:53 → 14:36 行仙宿 14:52 → 15:31 補給路登山口